

大阪大谷大学  
平成29年度 入学試験問題（一般中期）

日本史

**注意事項**

1. 問題冊子は、全部で6ページです。解答用紙は1枚です。
2. 解答用紙の所定欄に受験番号・氏名を記入してください。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
4. 問題冊子は持ち帰ってください。

【1】次の史料A・Bを読み、設問に答えよ。

A

倭人は〔 a 〕の東南大海の中に在り、山島に依りて国邑を為す。  
①旧百余国。漢の時朝見する者あり。今、使訳通ずる所三十国。郡より倭に至るには、海岸に循ひて水行し、韓国を歴て、乍は南し乍は東し、その北岸狗邪韓国に到る七千余里。始めて一海を渡る千余里。〔 b 〕国に至る。其の大官を卑狗と曰ひ、副を卑奴母離と曰ふ。……亦南一海を渡る千余里、名づけて瀚海と曰ふ。一大国に至る。……亦一海を渡る千余里、末盧国に至る。……東南陸行五百里にして、〔 c 〕国に到る。……世々王あるも、皆女王国に統属す。郡使の往来常に駐まる所なり。東南奴国に至る百里。……東行不弥国に至る百里。……南、投馬国に至る水行二十日。……南、邪馬壹国に至る、女王の都する所なり。水行十日陸行一月。……

其の俗、挙事行来に云為する所あれば、②輒ち骨を灼きて卜し、以て吉凶を占ひ、先ず卜する所を告ぐ。其の辞は令亀の法の如く、火坼を視て兆を占ふ。

<設問>

(1) 文中の空欄〔 a 〕～〔 c 〕に適切な語句を、下の(あ)～(か)から選びその記号を記せ。

(あ) 対馬 (い) 壱岐 (う) 隠岐 (え) 伊都 (お) 帯方 (か) 楽浪

(2) 下線部①は、中国の史書の内容に基づいて記されている。その史書の名称を記せ。

(3) 下線部②は、鹿の肩甲骨などを焼いてその割れ具合で吉凶を占う法について述べている。この占いの法は何と呼ばれるか。

B

其の国、本亦 [ d ] を以て王となす。住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐して年を歴たり。乃ち共に一女子を立てて王と為す。名を [ e ] と曰ふ。③鬼道を事とし、能く衆を感はす。年已に長大なるも、夫婿なし。男弟あり、佐けて国を治む。王となりしより以来、見る者少なく、婢千人を以て自ら侍せしむ。ただ男子一人あり、飲食を給し、辞を伝へ居処に出入す。……………

④景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣し郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを求む。太守劉夏、吏を遣し、将て送りて⑤京都に詣らしむ。

その年十二月、詔書して倭の女王に報じて曰く、「……………今汝を以て [ f ] と為し、[ g ] 紫綬を仮し、装封して帯方の太守に付し仮授せしむ。……………」と。

<設問>

(4) 文中の空欄 [ d ] ～ [ g ] に適切な語を記せ。

(5) 下線部③「鬼道」とは何を意味するか。簡単に説明せよ。

(6) 下線部④「景初二年」は正しくは「景初三年」と考えられている。この時期に「倭の女王」が魏に遣使したのはなぜか。簡単に説明せよ。

(7) 下線部⑤「京都」は魏の都を意味する。その都市名を下の(あ)～(え)から選びその記号を記せ。

(あ) 長安      (い) 建康      (う) 洛陽      (え) 平城

【2】次の文章Aおよび史料Bを読み、設問に答えよ。

A

商品・貨幣経済の進展に伴って、町人や百姓にも富が蓄積されるようになってくると、幕藩体制に動揺がみえ始める。

江戸幕府の8代将軍〔 a 〕は、その立て直しをはかるべく、幕府財政の再建に取り組んだ。〔 a 〕は、新田開発によって米の増産をはかるとともに、その年の収穫に応じて年貢率を決める〔 b 〕法を改め、一定期間、同じ年貢率を続ける〔 c 〕法を広くとり入れて、年貢収入の安定化を目指した。また、庶民の意見を聞くために〔 d 〕を設置したり、基本法令や旧来の判例に基づいた刑事法令を〔 e 〕にまとめて法制度を整備するなど、社会秩序の安定に努めた。

〔 a 〕による改革は功を奏し、幕府財政は一旦回復するが、彼の死後再び悪化する。そして10代将軍家治の時期に、①側用人から老中となった〔 f 〕が幕政を主導し、改めて財政の立て直しをはかる。

〔 f 〕は、同業者組合である〔 g 〕を広く公認して運上金・冥加金を徴収するとともに、町人資本によって〔 h 〕や手賀沼の干拓事業を進めたほか、②長崎での貿易も推奨する。このように、〔 f 〕による改革は、農業に依存するそれまでの幕府財政に重商主義的な転換を迫るものであった。

B

近年御物入相重り候上、凶作等打続き、御手当御救筋莫大に及び候に付、追々御儉約の儀仰せ出され候得共、天下の御備御手薄ニ之有り候ては相済まざる儀ニ思召し候。之に依り、③享保の御例を以て上納米も仰せ付らるべく候得共、当時不如意多の儀、且凶作等ニて難渋の砌ニも候得ば、御沙汰に及ばれず候。然しながら広大の御備の儀ニ候得ば、当時の御儉約のミを以て、其手当ニ仰せ付けらるべき様も之無く候間、高壺万石ニ付五十石の割合を以て、来戌年より寅年迄五ケ年の間、面々領邑ニ困穀いたし候様に仰せ出され候。

<設問>

- (1) 文中の空欄 [ a ] ～ [ h ] に適切な語句を記せ。
  
- (2) 下線部①「側用人」の立場で、元禄期に5代将軍綱吉を補佐した人物は誰か。
  
- (3) 下線部②「長崎」で、日本が貿易を行っていた相手国はどこか。2か国の国名を記せ。
  
- (4) 史料Bは、寛政の改革において実施された政策について述べたもので、備荒貯蓄などが目的であったことが知られる。この政策は何と呼ばれるか。またそれを主導した人物は誰か。
  
- (5) 下線部③は、享保の改革の中で実施された政策を指している。その政策は何と呼ばれるか。

【3】 次の文を読み、文中の空欄 [ a ] ～ [ j ] に適切な語句を記せ。

大阪大谷大学は 2016 年に創立五十周年を迎えた。

本学は鎌倉時代の [ a ] を宗祖とする真宗大谷派の関連学校で、その前身は 1909 年、左藤了秀が難波別院内に大谷裁縫女学校を設立したことにさかのぼる。

20 世紀初頭には、仏教・神道・キリスト教などの宗教を母体とした私立学校の設立が多く、大谷裁縫女学校の創設も、そうした流れのなかに位置づけることができる。

ところで、高等教育機関としての「大学」が日本で誕生したのは、どのような歴史的状況下でのことだったのだろうか。

評論家の立花隆が、「東京大学は勝海舟がつくった」と指摘しているように、日本の大学誕生の動きは幕末にさかのぼる。

19 世紀初頭以降、幕府と諸外国との間には緊張が高まっていた。特にペリー来航に端を発する開国後、勝海舟の積極的な関与のもと、幕府は [ b ] を設立した。これは洋学の教授と外交文書の翻訳などにあたる機関で、同時期に医学分野で設立された [ c ] (のち医学所) とともに東京大学の母体となっていた。

この時期、日本各地で洋学への学習欲が高まりを見せ、各地の都市で洋学塾が開かれた。その先駆となったのは緒方洪庵が大坂・瓦町に開いた [ d ] であった。その塾頭をつとめた [ e ] は、中津藩江戸藩邸内の蘭学塾に招聘され、それが後の慶應義塾の原点となる。

明治初期には、[ b ] と [ c ] とを引き継いだ大学南校と大学東校とを源流として東京大学が成立した。幕府の儒学の教育機関である [ f ] を引き継いだ大学本校は廃止され、近世の儒学・国学は解体されて西洋的な学問体系に再編成されていくこととなった。

しかしながら、明治時代初期に高等教育をリードしたのは官立専門学校だった。工部大学校は工部省工学寮として、東京法学校は司法省明法

寮から出発し、また [ g ] 学校は北海道開拓使により設立された。これは迅速な近代化に向けて各種の専門技能を身につけた大量の人材が求められたため、[ g ] 学校に招聘された米国人クラークなど、多くの外国人教師が招かれて西洋的な知の移植がはかられた。

こうした専門学校優位の状況は、1886年、初代文部大臣 [ h ] のもとで公布された帝国大学令を受けて変化し、東京大学・工部大学校・東京法学校などの官立専門学校などが次々に統合されて帝国大学が誕生した。

「大学」の名称を用いるまでのタイムラグはあるものの、私塾・私学が高等教育の一翼を担ったことも、近代日本の大学を考える際に重要である。先に述べた慶應義塾のほか、[ i ] は1875年に同志社英学校（のち同志社大学）を設立し、大隈重信は1882年に [ j ]（のち早稲田大学）を設立し、これらの私学は特色ある学風を発揮した。